

1300人超の「転職体験記」が 相談者の満足度を象徴 転職カウンセラーの 「取材に基づく提案力」のすごみ

毎年3月に国土交通省が発表する公示地価で、例年全国トップ3を占める銀座。その中央通り沿いの日本生命銀座ビルに本社を置く正社員専門の人材紹介会社がエリートネットワークである。今年で創業25周年を迎える同社を取材した。

「当

社が支援した転職者の定着率は他の人材紹介会社に比して圧倒的です。ある自動車会社では過去10年間さかのぼっても断トツでした。エリートネットワークの執行役員で転職カウンセラー歴25年の高橋寛氏は胸を張る。この驚異的な定着率は、高橋氏からカウンセラーによる、企業と転職者とのマッチングが最適であった証しだ。

1300人超が寄稿 感謝をつづった 転職体験記

同社の特徴は「効率ではなく、何よりも効果を重視すること」。例えば、通常、大手の人材紹介会社では、人材を採用したい企業を担当する法人営業と、転職希望者を担当するカウンセラーは別部署となっているが、同社では双方を兼務する。法人営業は転職希望者との面識は一切なく、転職カウンセラーは一切企業への訪問取材をしないで案内するという問題を解消するためだ。「転職希望者が本当に必要とするのは求人票には載っていない情報です。私たちは法人営業として徹底的な取材で最低150社以上を熟知してからスタートします。だからこそ、企業の



エリートネットワーク
カウンセリング事業部
執行役員
高橋 寛氏



エリートネットワーク
カウンセリング事業部
横関 綾子氏



エリートネットワーク
カウンセリング事業部
保坂 雄大氏

実態やカルチャーについて表面的ではないお話をすることができるとのことです。

そう断言するのは、カウンセラー歴23年の横関綾子氏。旅行会社のツアーデスクの説明でも、実際に現地を訪れたことのある人とそうでない人の説明は全く質が異なるのと同じだ。カウンセラーが企業訪問で集めたリアルな情報は、転職者がありがちな「こんなはずじゃなかった」を回避し、ミスマッチの懸念を極限まで減らす。

転職希望者へのフォローのきめ細かさも他社の追随を許さない。まずは担当カウンセラーが直接会って要望を聞き、その後、複数のカウンセラーでどの企業

がふさわしいのかを検討する。転職先が決まるまでの平均期間は3〜4カ月、長い人では1年に及ぶ。

初回の90分ほどの面談（コロナ下ではオンラインで実施）後も、1人の担当者が継続して5回、10回とフォローを繰り返す。いわば二人三脚で転職活動を進めるのだが、大切にしているのは猜疑心を払拭し、安心して本心を開示してもらえ関係になることだ。

「最初から本音をお話してください。まずはまずいけません」と、理系の転職にめっぽう強いカウンセラーの保坂雄大氏も言う。誰しも、今勤めている会社のマイナス面は口に出しづらいも



「転職体験記」は1356人の成功実例が詳細に書かれている

の。しかし、本人が感じる本心の「心象事実」の中にこそ、譲れない仕事へのこだわりや絶対避けたい内容が隠されているのではないだろうか。

さらに、マッチングの精度を高めるべく、カウンセラーの習熟度のばらつき、求人情報の偏り、縄張り意識などを避けるための工夫にも手を尽くす。例えば、法人営業には担当者以外の他のカウンセラーも複数人が共に同行取材する。毎朝定例のカウンセラーを設けて議論し、一カウンセラーだけのノウハウに依存しない会社レベルの提案が可能な仕組みを作っている。

かのが、ホームページに掲載されている「転職体験記」だ。2022年5月11日現在、1356人分の具体的な体験記を読むことができるのだが、これほどの蓄積は、他社にはないだろう。しかも、これらは全てボランティアで書かれており、原稿料などは払っていないという。これもまた、同社を利用した転職者の満足度がいかに高いかを雄弁に物語っている。

内容を見ると、担当カウンセラーとのエピソードが多く、両者の良好な関係性を基に、転職活動が進められたことが察せられる。相手から受けた厚意などに対し「お返し」をしたいと感じる心理を「返報性の原理」というが、カウンセラーへの信頼や満足度の高さがひしひしと伝わってくるのである。

10年後には高専が 公正に評価される 社会に

同社にはもう一つ、特徴的なコンテンツがある。19年6月に開設した高専（高等専門学校）出身者の転職支援に特化したサイトだ。これは、各カウンセラーが企業とやりとりする中で、技術系現場で強いニーズがあるにもかかわらず、大卒や院卒者

の陰になり、高専出身者の存在感が薄いのではないかとという現状認識に端を発する。自らも函館高専出身で転職カウンセラーの松浦和司氏は、「ネット上で検索してみても、出てくるのは大卒者向けの案件ばかり。高専出身者はどうしたらいいかわからない」という声が同社に以前から寄せられていたことを明かしてくれた。また高橋氏は、「そもそも高専の世間での認知度も目体が低い。企業の人事部でも文系出身者が多いので、高専のことを深く知らないのです」と分析する。

そうかもしれない。世間一般の認識といえば、せいぜい「ロボコン（ロボットコンテスト）で競い合っている学校」程度ではないだろうか。

少し解説すると、高専は技術者養成の高等教育機関。入学対象は中学校卒業生。修業年限は本科5年、専攻科2年。目下全国に57（国立51校、公立3校、私立3校）の高専がある。特筆すべきは、教員の指導力と卒業生のレベルの高さだ。「有名大学でも成績上位者は、高専出身者であることが多いです。東大工学部の各学科を主席で卒業した高専出身者が話題になることが度々ありますね。」

保坂氏は東京工業大学の修士課程出身だが、在学中は高専出身の同級生の優秀さに何度も舌を巻いたという。高専は、そもそも文部科学省が定める「学習指導要領」の制約を受けない高等教育機関なので、高校の教諭とは指導者の質からして違う。博士が指導者であり、独自のテキストで、15歳から高度な教育を授けてくれるのだ。

「実験も15歳から本格的に行い、毎週のようにレポートを提出させられました」。松浦氏も、実践的な学びの日々を振り返る。

STEM教育が叫ばれる昨今、高専に対する過小評価は日本社会全体にとって大きな損失なのかもしれない。最後に松浦氏は、「世間の高専に対する理解を深め、10年後には、高専出身者が公正に評価される社会にしたい」と語ってくれた。



ホームページ内にある特設サイト「高専就職・転職ガイド」



問い合わせ先
株式会社エリートネットワーク
〒104-0061 東京都中央区銀座2丁目6-8
日本生命銀座ビル6階(受付)・9階
Tel 03-3562-6002
https://www.elite-network.co.jp/

エリートネットワークは高専の就職・転職も強みとし、高専の出身者も多い。写真の3人も高専出身者。左から野口豪気氏、松浦和司氏、藤原裕樹氏

